もっと光を

副会長　河野　登夫

仕事柄，先端技術にコミットすることが多い。人間の知恵のすばらしさに感銘を覚えることもしばしばである。こうした技術が我々の暮らしを変えてゆく。そのプロセスに関わることができるのは弁理士という職業の喜びの一つである。

さて，情報技術は日本弁理士会の広報活動にも変化をもたらしている。外部に向けてはホームページが用意されており，お決まり情報の他に日本弁理士会を巡るニュース，催事のお知らせなどが随時掲載されている。2001 年年度末に体裁が新しくなり閲覧がしやすくなった。本誌の全文掲載も軌道に乗ってきた。ユーザが望む情報をより早く，を合い言葉に，***コンテンツの一層の拡充***を図る予定である。

一方，会員向けサイト「日本弁理士会電子フォーラム」は会員への情報伝達ツールとして益々有用性を高めている。会員向け印刷物／送付物の相当量が電子情報として配信されるようになり，経費節減，情報伝達の迅速化に大きく貢献している。会員にとっては情報の２次利用がしやすいというメリットもある。本年は「フォーラム」の利用度を一層高めることに注力している。その大きな柱は***各種委員会の審議内容の公開***である。委員会の審議結果は一般的には年度末に会員が知ることになる。しかし，経過を知ることは特別なルートがない限り不可能である。「フォーラム」での公開によって多くの会員が経過を知るところとなり，委員会への意見，情報のフィードバックが行われることが期待される。また専門委員会の委員就任希望者が定員を上回ることが多い。人気の理由の一つは新しい情報の入手にあると思われるが，公開はこうした要望にも答えることができる。更に重要なことは委員会資料がアーカイブ化されるということである。重要資料は複数年度に亘って使用又は参照されることが多いが，これらに対する利便性が著しく向上すると思われる。まずは特許，意匠，商標，ソフト，バイオの５委員会でスタートする。これら委員会の配付資料（秘密資料は除く）及び議事録は秋口から閲覧できるようになる。

インターネットはもはや先端技術とは言えないが，こうした情報伝達ができるのはまさに通信／情報技術の進歩のお陰である。そうした恩恵に浴せないのが弁理士会館の通信インフラであった。多様な活動を行う事務局職員にはしかるべき設備が用意されていることは言うまでもないが，来館する弁理士がインターネットを自由に利用できる環境にはなかった。自前のモバイルギヤも地下の会議室ではお手上げである。

このような状況を解消するために正副会長室は***無線 LAN 接続環境***とした。正副会長は各自のモバイルで自由に情報の発受信ができるようになった。インターネット環境で使用できる共通のスケジューラも導入された。会議での配付資料の電子配信もまもなくである。来館される会員諸兄に対する快適通信環境もほどなく整備される。工事待ちとなっている***光ケーブルの導入***が済めば３階，地階がホットスポット化する。情報企画委員会では委員会の配布紙資料ミニマム化の手法を探り始めている。ブロードバンド化が進めば委員各自のオフィスからの委員会参加も夢ではあるまい。もっと光を，いや光ケーブルを，である。

正副会長会はしっかりと働いている。会員のために。

自分一人で石を持ち上げる気がなかったら，二人でも持ち上がらない。（ゲーテ）